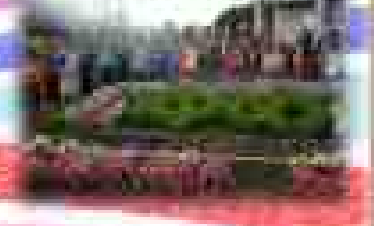




キャリア通信

夢をはぐくむキャリア教育



～ 大好きな自分 ないたい自分 みんなと生きる自分 ～

平成 26 年 12 月 1 日 No. 14

～ 子ども達の未来を考えた学び方 ～

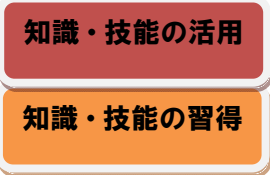
「現在の小学1年生の65%は、 今存在しない職業につくだろう」

デューク大学 キャシー・デビッドソン教授
2011年 ニューヨークタイムズ紙

この言葉を見ると、急激に社会が変化し、私たちの暮らしや仕事も大きく変わっていくことが予想できます。海外で働いたり、外国人と一緒に働くことが当たり前になったり、ICT 技術革新がさらに加速し、働き方や組織の在り方も変わっていくと考えられています。こんな社会に子ども達を送り出す私たちは、一体どんな教育をしていかなければならないのでしょうか。

知識や技能を活用できる力を!

これまで重視されて来た知識や技能の習得中心の授業から、得た力を活用できるようにする能力も授業の中で身に付けさせていくことが求められます。全国学力・学習状況調査のB問題の出題の意図は、予測が難しい社会においても、学んだことを活用することで生き抜く力をつけていきましょう!というメッセージと言えます。



高校入試などでも、活用する力を問う問題が増えている傾向にあります。小学校からこのような出題に対応する経験は必要です!

本校では、応用力や活用力を問うテストを全校で実施しており、課題に対応した取組がされています。

『学び合い』と『家庭学習』

課題が複雑化し、決まった正解がないこれからの社会は主体的に考えて行動できる力、他者と協働で問題解決できる力が大切になってきます。日常の授業の中で、自分の考えをもたせ、自分の考えをわかりやすく伝えたり、相手の意見を理解したりできる学び合いの場面を多く用意する必要があります。

また、学校で学んだ知識をしっかりと定着させるための家庭学習の充実が大切になります。そのためには、子ども達が今日学校で学んだことは何なのかをとらえることができる明確な課題とまとめが重要になります。何を家庭学習で行えばよいかわかるようにする授業の終末場面があると良いですね。

日常の授業は、確かな学びの提供と学び合いの重視。家庭学習は、授業の復習で学びの定着。